



1 20年度の出会いは、いかがですか。

20年度が始まって3週間が経ちました。4月7日(月)の始業式、入学式当日の子どもたちとの出会いはいかがでしたか。

いつも担任発表・職員紹介の際の子どもたちの表情は皆真剣そのもの。一人ひとりの紹介のたびにどよめきが起こったり、友達と顔を見合わせたりする反応がよく見られます。子どもたちがどれ位、自分へ関わってくれる人との出会い、巡り会いに関心を持ち、期待しているのかが分かります。

式前後の担任との初めての学活。体育館とは違い、距離が一層縮まった教室空間の中で、様々な出会いの光景があったことと思います。信頼を寄せる人物との距離は、近いほど親密度が増すとされます。

始業式、入学式の翌日から早速、子どもが信頼を寄せる教師の指導のもと、学級づくりが進んでいることと思いますが、規範意識やマナーが十分に備わっていない子の増加が多方面から指摘される中、日常の指導がスムーズに行える学級の躰は大変重要です。「教師の目を見て動ける子が多い学級は、指導の成果が上がる。」と、以前からよく言われてきました。

しかし、緊張の連続ばかりでは、子どもも心理的な疲労が蓄積し、うつろな表情を見せたり、教師が意図するような反応を示さずに、様々な行動に出たりするようになります。

教室は子どもたちと教師の生活空間であり、学びの場。心理的な安定が欠かせない場です。硬軟のバランスを程良く保ち、子どもが心理的にも安定した状態で生活できるような雰囲気が出て来るようだと良いのでしょう。

2 今の時期に多い子どものサイン

間もなくゴールデンウィークです。学校としては、「やっと軌道に乗って来て良かった。」と思いきや、この休みによって子どもたちの生活リズムが保たれずに、心配な連休明けを迎えます。いわゆる「五月病」の時期でもあります。

新しい環境のもとで期待に胸をふくらませ、張り詰めていた糸が「プツン」と切れたような状態、どことなくうつろな感じで虚脱状態。経験がある方もいると思います。

児童生徒に見られるのは登校しぶり。朝、なかなか起きて来ない、出かけるまでが億劫、足が一向に進まないなどの状態が出て来ます。小学校低学年の場合ですと、「母子分離不安」によるものもあり、親から引き離されて学校へ行かされることに不安や恐怖心を示すこともあります。

子どもたちが休みに入る前に、休みだからできそうなことを課題として持たせ、ゴールデンウィーク後に互いのよさを認め合う学級づくりに生かす工夫が大切です。

3 「困ったことは、ありませんか。」

市総合教育センターでは、「子ども健康教育相談」「適応指導相談」「教職員の相談」関係の教育相談を行っているのをご存じですか。

最近特に、発達障がいについての相談が多く寄せられています。「困った」「どう対応したら良いか分からない。」などと思ったら、すぐ校内の学年主任や特別支援コーディネーターに相談してみましょう。相談内容とその程度によって橋渡ししてくれると思います。

市総合教育センターでは、そのような相談に応じたり、必要であれば、当センターが委嘱している医師や臨床心理士(月に一度程度来所)に繋げたりすることもできます。困っている保護者の方への周知もお願いします。連絡先は次の通りです。